

お彼岸 ― 人生の意味？ ―



「息子が亡くなりました」と電話をいただいた。胸騒ぎを覚えながら枕経にむかった。お勤めを終え、「どうされました」と思い切って尋ねると、泣きながら父親が話してくださった。「最初の就職先の仕事は辛くはなかったが、一生続ける価値がないように思い転職した。次の職場も、仕事や人間関係に悩むことはなかったが、楽すぎてもつとやりがいのある仕事がしたくてやめた。次の職場は、みんながバリバリ働いていて活気に満ち溢れていたが、自分の技術や処理能力が追い付かない。ミスもするし悩むようになった。やがて欠勤するようになり、医者にも通い、入院もした。実家に戻り親と同居して落ち着いていたように見えていたので大丈夫と思っていた。以前一人暮らしをしていたアパートに戻るといので送り出したら、自ら人生を終えてしまいました。」

満中陰の時、おじさんが「〇〇の人生に意味はあったのでしょうか？」とおっしゃった。私たちは、人生の意味を尋ね、満足できる生き方をしたいと思い、周りと比べながら、努力を重ねています。それが、此岸(世間)の価値観です。そのような価値観を生きる私たちをつつみ、彼岸(阿弥陀如来の浄土)からは私に「あなたは今尊いいのちを生きています、比べる必要のない、あなただけの唯一の輝く人生を、限らないのちたちと共に生きています」とよびかけてくださっています。それが、「南無阿弥陀仏」です。

(藤井千龍)